

【問合せ】

市民図書館歴史資料室

( ☎ 017-732-5271 )

## 道や公園に残る浜館村の歴史 〜東部地区に造られた様々な施設〜

昭和30年（1955）に青森市と合併した東津軽郡浜館村は、北は松森・佃・小柳から南は田代湿原・グダリ沼辺りまでと広い面積を持った村でした。今回は、この浜館村のうち、様々な施設が造られ人々が訪れた佃地区とその周辺を中心に上げてみたいと思います。

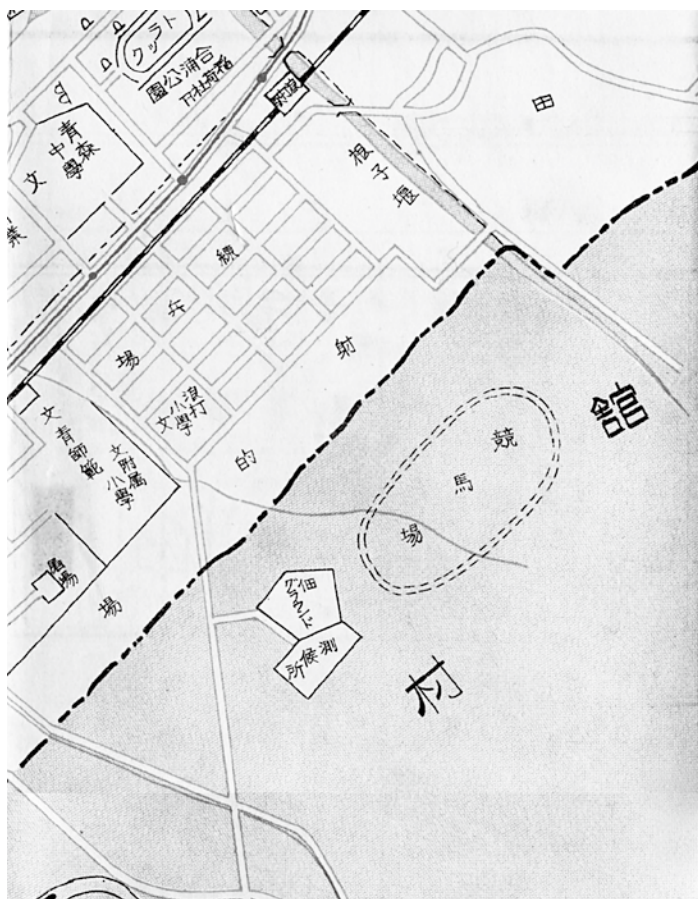


【写真①】 浜館支所（歴史資料室蔵）

### 造道村から浜館村 そして青森市へ

浜館村域は、藩政時代から駒込川の強酸性水による稲作への被害に苦しめられ続けた地域を含み、明治初めには浜館・戸山・沢山・駒込・古館・松森・田屋敷・八重田・小柳・造道の10か村がありました。

これらの村々は、明治22年（1889）の市制・町村制施行の際に合併し（造道村は一部）、これらを大字とする「造道村」が誕生しました。さらに、昭和2年（1927）4月には大字八重田・造道が青森市に編入され、同年5月15日から村名を「浜館村」と改称しました。そして、昭和30年1月15日に浜館村は合併により青森市に編入されることになりました【写真①】。



【図1】『昭和6年青森市勢一覧表（部分）』（歴史資料室蔵）  
図中の「練兵場」はこの時点で移転している。

### 練兵場への往復 〜住宅地に残る

兵士たちが通った道

佃地区の北側にある浪打一・二丁目、かつて練兵場と呼ばれていました。それは、ここに陸軍歩兵第五連隊の練兵場があったことに由来します。

その南西にあたる佃一丁目から桜川四丁目までには、住宅地の中を斜めに延びる1・1キロメートルほどの道があります。桜川が住宅地となる以前には、この道は現在の青森高校の場所にあった第五連隊の裏門までまっすぐ続

いていました。

明治から大正にかけて、第五連隊の兵士たちが、当時は田地の中であったこの一直線の道を、浜館村を通って練兵場での訓練のため往復していたのでした（【図1】の「浪打小学」から下方に延びる道）。

ところが、大正末頃に第五連隊の弘前移転計画が持ち上がり、市はそれを止めるために造道村駒込の広い土地を買い上げ、月見野練兵場を造成してこの練兵場と交換しました。

そして、旧練兵場敷地のうち学校建設予定地以外を、18区388区画に分けて

整備し、昭和3年（1928）から宅地として販売しました。このときの街区は今もそのまま残っています。

## 佃野球場

平成10年（1998）に市制100周年記念事業として造られた「つくだウエザーパーク」の場所は、昭和3年（1928）から平成元年まで「青森地方気象台（青森測候所）」でした（一時は出張所となる）【写真②】。そして、その北側にはかつて「佃野球場」と呼ばれたグラウンドがありました【図1】。

これは甲子園球場と同じ大正13年（1924）に完成したもので、下北郡川内村の菊池與太郎が出資し、青森



【写真②】 佃にあった青森地方気象台（昭和30年代）  
（広報広聴課蔵）

市の野球チーム関係者などが協力して建設されました。1千人以上を収容できるというスタンドを備えた立派な球場は県内随一で、東北でも仙台市に次ぐ規模といわれました【写真③】。

昭和2年の第13回全国中等学校優勝野球大会（現在の全国高等学校野球選手権大会の前身）に、青森県から青森県師範学校が初出場したときの奥羽予選が行われたのもこの球場です。また、函館大洋倶楽部や大阪毎日野球団といった社会人野球や大学野球チームの試合なども行われ、多くの野球ファンが観戦に訪れて賑わいました。

その後、昭和8年に沖館地区に新たに青森球場ができると、次第に佃野球場で大きな試合が行われることが減ってしまいました。



【写真③】 佃野球場（昭和8年『青森名所案内』より）

## 青森競馬場

佃二丁目から三丁目にかけて通称明の星通りを挟み、まるでサーキットのような道があります。これは昭和6年（1931）に開設された「青森競馬場」の名残なのです【図1】。

青森県ではすでに八戸・金木・野辺地（昭和6年閉場）で競馬が開催されていました。昭和2年の地方競馬規則公布をうけて、青森市競馬場設置期成会などが公営競馬の誘致を政府に働きかけました。

こうして、昭和6年7月、浜館村に青森競馬場が竣工し、8月1日からレースが開始されました。国道に近いこの付近は市営バスや東北本線浪打駅も利用できる交通至便な場所。初日は快晴のもと競馬ファンが続々と訪れ、乗り物は超満員、スタンドもすし詰めの状態だったそうです。また、当時は繋駕競争という騎手が馬の後ろにつけた二輪馬車に乗って走らせるレースなども行われていました。

昭和7年に発表された「青森行進曲」に「桜々に 競馬はいさむ 佃婦りの人波こえて」と歌われた佃の競馬場でしたが3年で休催となり、戦後の昭和24年に農地となっていた土地を整備して再開されました。しかし、赤字が続ぎ、これも3年で休止してしまいました。

## ふたつの農村救済計画

競馬場が造られた昭和6年（1931）は、2月に青森測候所が歴代最低気温マイナス24・7度を記録し、春になっても低温と天候不順が続いて北海道・東北は大凶作に見舞われました。

そのため、農村の救済策として、政府は翌7年に、青森に飛行場建設を計画します。このとき浜館村の競馬場付近も有力候補になりましたが、村と地主の反対もあり、最終的に飛行場は油川に決まりました。

同じ年、やはり農村救済事業として駒込川の強酸性水対策の工事が始められ昭和15年に完成しましたが、地獄沼付近で起きた地殻変動によって再び強酸性水が農地に流れ込むようになり、浜館村の人々の戦いは戦後まで続くこととなりました。

その後、旧練兵町の南に広がっていた農地は住宅地に変わっていききました。佃野球場の跡は残念ながらはつきりしませんが、兵士たちが練兵場へ往復したことや、競馬場、気象台があったことは今も道や公園に残り、この地域の歴史を伝えています。

（市民図書館歴史資料室嘱託員

鈴木美香）